

新しいことに挑戦する卒業研究へのアドバイス

卒業研究で扱う分野を4年次になって初めてまともに勉強するなんて言う人もいるのではないだろうか、かくいう私も卒業研究は解析ソフトの改良を行ったのだが、4年次になり初めてプログラミング言語というものに触れた。このように、1年間で卒業研究として形にしなければならない時の、新しくものを学ぶことへの自分なりのコツを後輩たちに何かしらの恩恵があればと思いながら書いていきたい。

⇒まずは基礎から！

何をするにもまず基礎が大事になる。しかし、基礎と言っても先生方の言う基礎は既に難しいもので、そんなに早くたくさん覚えきれない！となってしまうこともあるだろう。しかし、ここでついていこうと焦ってパンクしてしまうより、基礎の基礎、本当に単純な事をまずは身に着ける。これだけでそれ以降の学びで変化が現れる。焦っていた時よりも、より早く、より多くのものを吸収できるようになっているだろう。

⇒自分の研究テーマを意識してみよう！

新しいことに挑戦すると、自分の中にほとんど知識が無いなんて事は当たり前起きる。そのため自分の引き出しが無く、先生との会話に全然ついていけなくなってしまう。しかもすでに研究は始まっていて、そんなに腰を据えて様々な情報を集める余裕もない。そういう時、自分の研究テーマについて意識しながら生活してみるのもいいかも知れない。毎日毎秒、研究の事を考えていては疲れてしまうが、ふとした時に、このことは研究と関係あるなど調べてみたり、なんとなくでも意識しているだけで知識の反芻になったり、新しい発見があるだろう。

⇒論文を読もう！

研究をするようになると、先生からこの論文を読んだ方がいいと論文を読まなくてはいけない場面に多々遭遇するだろう。もちろんそれを読むのも重要だが、しかしそれ以外にも、調べ物や知りたいことについて積極的に論文を用いることをお勧めする。論文は知識の宝庫で、その時に知りたい内容では無かったとしても。後々、その知識で研究の打開策が生まれることが往々にしてある。そのための論文の読み方等、他の学修ガイドに掲載されているのでそれも併せて読んでもらいたい。

最後に

ここまで新しくものを学ぶ時のコツという事で、書いてきたが。正直、先生方の甚大なる協力があっても、卒業発表をする頃には不完全燃焼の気持ちを抱えているかもしれない。しかし、新しいことを学び形にしたという経験、そこで得られた知識は今後の人生で役に来る時が来るのではないだろうかと思う。ぜひ4年次にかかわらず、「今からだと一年もないから」と時間の制約を言い訳にせず、新しいことにしり込みせず、大学の4年間は知見を増やすいい機会であるので、新しいことに挑戦してってもらいたい。